

兵庫で施設園芸

ひょうごの農に 夢をのせて

農業施設貸与事業モデル集

兵庫で施設園芸
ひょうごの農に夢をのせて

兵庫県担い手育成総合支援協議会

兵庫県

平成 28 年 3 月



兵庫県では「兵庫県地方創生戦略」及び「ひょうご農
林水産ビジョン2025」を策定し、意欲ある多様な農業
の担い手育成の取組みを進めています。
特に、新規学卒者から定年退職者まで幅広い世代の就
農や生産拡大等を促進し、地域農業の活性化を推進する
必要があります。

このため円滑な就農と地域への定着や農業法人の経営
発展および雇用創出、生産拡大を図るため、施設園芸に新
たに取組む農業者や規模拡大を目指す法人等の初期投資
の軽減を図るための農業施設貸与事業を創設しました。
この冊子では、兵庫県の多様な地域で、多様な農業者
が、この新事業を活用し、施設園芸で就農・経営拡大し、
それぞれの夢の実現を目指す輝く事例をご紹介します。
魅力的な地域で、素敵なお仲間とともに兵庫県で農業を
はじめませんか。

目次

多彩なひょうごの農林水産業	3
農業施設貸与事業とは	6
モデル事例	7
参考資料	37
・関連施策・資金 (認定新規就農者制度／農業施設貸与事業支援資金／青年等就農資金)	
・新聞記事	



多彩なひょうごの 農林水産業

本県は、「日本の縮図」と言われるように、南北を海に面し、多様な自然環境を有するとともに、ひょうご五国の多様な気候や風土に根ざした多彩な農林水産物が生産され、都市近郊の立地や食品関連産業の集積など兵庫の強みを活かした農林水産業が展開されています。



神戸・阪神地域

1 市街地やその周辺では、葉物野菜やトマトなどの野菜生産、農村部では、米、麦、大豆など土地利用型作物が生産されています。

2 神戸では、もも、ぶどう、かきなどの果樹や花きの生産、酪農が盛んであり、阪神では、いちじくなどの果樹、但馬牛肥育による「三田牛」、道の駅等で提供されているそばなど、地域の特産物が生産されています。

播磨地域

1 米、麦、だいず等の土地利用型作物やキャベツ等の野菜の生産が行われています。また、粘土質の土壌を活かした全国一の生産量を誇る酒米「山田錦」の生産が盛んです。

2 大規模な酪農経営体が多く、また、銘柄鶏「播州百日どり」、但馬牛肥育による「黒田庄和牛」、「加古川和牛」が生産されています。

3 明石海峡から播磨灘にかけて小型底びき網を中心とした漁船漁業が営まれており、タイ、タコ、イカナゴ等の魚介類を水揚げし、特に、ノリ養殖は県内生産量の5割近くを占めています。

【西部地域】

1 大規模経営による鶏卵生産や但馬牛肥育による「PREMIUM姫路和牛」の生産が行われています。

2 北部では、黒大豆、もち大豆「夢さよう」等の特産物が生産され、南部では米・麦・大豆等の土地利用型作物や、干拓地でのにんじん、だいこん等の野菜生産、姫路市近郊では姫路れんこんや網干メロン等の伝統野菜が生産されています。

3 宍粟市にある兵庫木材センターを核として競争力のある県産木材を供給するとともに、未利用木材を木質バイオマス発電所へ燃料として供給しています。

4 播磨灘を中心とした海域では、小型底びき網、船びき網を中心とする漁船漁業と、ノリ、カキ、アサリ等の養殖業が盛んで、カキ養殖は、県内では当地域のみで行われています。

但馬地域

- 1 環境への負荷軽減に配慮した「コウノトリ育む農法」による米・だいずや冷涼な気候を生かしただいこん、キャベツ等の高原野菜、なし、岩津ねぎ、美方大納言小豆、朝倉さんしょ等の特産品が生産されています。
- 2 但馬牛の原産地として、世界に誇る「神戸ビーフ」の素牛となる但馬牛の繁殖・肥育が行われています。
- 3 高性能林業機械の導入等による、製材用原木等の低コスト生産が行われているほか、木質バイオマス発電所の燃料として未利用木材が供給されています。
- 4 日本海では、沖合底びき網漁を中心とした漁業経営が展開されており、ズワイガニやホタルイカ、ハタハタ、ベニズワイガニ等は、全国でも上位の水揚げを誇ります。

丹波地域

- 1 昼夜の寒暖差など地域特有の気候条件を活かし、丹波ブランドの特産物（黒大豆、大納言小豆、やまのいも、くり、茶など）が生産されています。
- 2 肉用牛、酪農、養鶏など多様な畜産経営が展開されており、特に篠山市では但馬牛の肥育が盛んで、「丹波篠山牛」が生産されています。
- 3 高性能林業機械の導入等による、製材用原木等の低コスト生産が行われているほか、木質バイオマス発電所の燃料として未利用木材が供給されています。

淡路地域

- 1 県下で最も農業生産の盛んな地域であり、年間を通じて温暖な気候を活かし、たまねぎ、レタス等の野菜と水稲との多毛作や、かんきつ類、いちじく等の果樹生産、カーネーション、きく等の花きが生産されています。
- 2 県内の生乳生産量の約4割を占める酪農経営や、県全体の飼養頭数の3分の1を占める但馬牛の繁殖や肥育経営など、畜産業の県下の主要な産地です。
- 3 小型底びき網や船びき網など多様な漁船漁業と、ノリ、ワカメ、淡路島3年トラフグ等の養殖業が営まれ、県下の漁業生産額の3分の1を占める主要な産地となっています。

農業施設貸与事業とは

新規就農者や農業法人等が施設園芸に取り組むときの初期投資の軽減や経営リスクの低減を行うために、JA等が園芸施設等を整備して貸与する経費に県が補助するものです。

JA、市町、県民局が連携して営農支援等も行います。

事業のしくみ

■事業実施主体

農業協同組合連合会、農業協同組合、市町等

■利用者

- (1) 県内居住の新規就農者
- (2) UJiターン者
- (3) 農業外からの参入企業
- (4) 農業法人
- (5) 施設園芸の生産の拡大又は新たに施設園芸に取り組む者

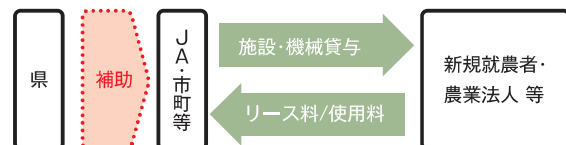
■補助率

- (1) (2): 1/2以内
- (3) ~ (5): 1/3以内

ただし、高度環境制御栽培施設及び補助対象事業費が1億円以上の施設は15/100以内

■対象施設

- (1) 園芸施設（ビニールハウス、ガラス室等で附帯設備を含む）
- (2) 施設と同時に導入する農機具、運搬用機器等



地域別実施状況（平成27年度）

神戸・阪神地域		13
播磨地域		31
但馬地域		14
丹波地域		6
淡路地域		4



店頭に出すと即完売！ お客様目線のいちご作りが評判

良質の実が育つように
芽欠きも大事です。



また道路沿いの角地、車で行きやすい立地も手伝い、他府県から多くの人が訪れるそう。そのため出した途端売り切れてしまい、いちごの生産が追いつかない状況が続いていたとか。そこで2015年、ハウスの拡張に向けて本格的な準備を始められました。



PROFILE

Fujimoto Kouji
藤本 耕司

所在地
兵庫県神戸市北区大沢町
経営規模
施設 3,400㎡ 露地 62.5a
品目
いちご(章姫、おいCベリー)、
スイートコーン、ぶどう、いちじく
就農年月日
平成13年10月1日



会社勤めから家業の農家へ

神戸市北区の「すまいるふぁーむ 藤本」で代表を務める藤本耕司さん。以前は企業勤めをしていましたが、2001年、祖父が農業を引退することになり、藤本さんが代わって従事することになりました。現在は、藤本さんが施設栽培でいちごを、神戸アグリマイスターでもある父・喜郎さんがスイートコーン、いちじく、ぶどうなどを露地栽培しています。

藤本さんが丹精込めて育てた青果物は、目の前にある農産物直売所「大沢ファーマーズマーケット」で販売。この直売所は喜郎さんが運営を任されていて、地元生産者約20人の農産物を販売しています。鮮度抜群で美味しいと評判で、

貸与事業の利用で初期負担を軽減

新設するハウスは、露地栽培に利用している土地のうち12aに建てる、32・5m×35mの5連棟。天井は開閉式で室内の温度、湿度、二酸化炭素濃度などを感知して自動調整する機器も導入し、生産効率のよいハウスが出来上がります。既存のハウスでは、人気品種でもある「章姫」を栽培しているほか、「おいCベリー」のように「章姫」とは違う品種を毎年最低でも1種、研究も兼ねて栽培されていますが、新設のハウスではこれらに加え「紅ほっぺ」も栽培する予定だそうです。



収穫したばかりの「紅ほっぺ」

お客様目線のいちご作りをめざして

ハウスを拡張するのは、「これまで品薄で購入できなかったお客様にもおいしいいちごを届けたい」という増産目的に加え、「お客様の要望に応えるいちごを生産したい」という思いも込められているのだとか。例えば、見舞いの品として持つていきたいという場合には、日持ちする品種が求められます。また、ケーキ職人の場合は、単に美味しければいいというものではなく、味、香り、水分量、大きさなど要望は細かく異なります。購入者の用途に応じて、求められるいちごは異なるので、お客様の目線でいちごを作っていきたいですね」と、藤本さん。直売所で買った人たちが喜ぶ顔をイメージしながら、今後ますますいちご作りに邁進し続けます。



ハウス内では、成育促進のため炭酸ガスを施用

が、タイミングよくこの事業を利用してきて、初期負担を軽減してスタートを切れるのはありがたいことですね」と、藤本さんは話します。



収穫時に使う「収穫台車」

Advice & Planning

担い手を育てる 若手リーダーとして期待

藤本耕司さんは施設いちご、ぶどう、いちじくなどを自身が経営する直売所で販売に加え、スイートコーンの観光農業など家族で役割を分担しながら安定した収益をあげ、直売・観光による経営モデルとなっています。今回は氏が担当するいちごの規模拡大意向を受け、本事業を活用することになりました。

これまでに、北神戸農業青年クラブの会長や兵庫県青年農業者などを歴任され若手農業者のリーダーとして活躍されたとともに県農業大学校生や地域農業後継者の研修の受入も実施しておられ、地域農業後継者の育成にも貢献されています。

農業施設貸与事業を活用して増設したハウスで、より多くのリビーターに高品質ないちごを供給でき、更に、藤本さんの指導を受けた研修生が数多く地域の担い手として活躍されることを期待します。



兵庫県神戸県民センター
神戸農業改良普及センター 経営課
普及主査 日岡千之



地域コミュニティに積極的に参加して 近隣住民や同業者から信頼を獲得

新たにチンゲンサイを栽培するため
師匠の畑で勉強させてもらってます



「JA直売所」などに出荷された
そうす。よその生産者の農作物も
目の当たりにでき、次の生産に向けて
戦略を立てるヒントが得られました」と
久國さん。しかし初年度を振り返り、
露地栽培では冬に収穫できる野
菜の種類が減るため、冬季も安定的に
収穫できるハウスの必要性を感じまし
た。



PROFILE

Hisakuni Jiro
久國 二郎

所在地
兵庫県神戸市西区岩岡町

経営規模
施設 1,400㎡ 露地 40a

品目
いちじく

就農年月日
平成26年4月1日



確かな情報収集力で着実に就農

久國二郎さんが前職を辞めたのは、43歳のときのこと。その会社で約20年間、製造から店舗運営全般を担っていたが、将来の自分を想像したとき、その会社で働いていたイメージが湧かなかったそうす。そこで、入社時から考えていた自営を実現しようと考え、その頃、メディアで紹介されていた農業の情報を収集。兵庫楽農生活センターの楽農学校のほか、JA兵庫六甲の新規就農塾1期生として、栽培技術や知識を修得されました。

その後、西区のベテラン農家、田中和広さんのもとで修業し、2014年、満を持して「ひさくに」農園をスタート。初年度は露地栽培のみで、いちじく、なす、甘長とうがらし、南瓜など約10種の野菜を手がけ、インショップ（大型スーパー）に設けられたJA直売所などに出荷されたそうす。

地域とのつながりの大切さを実感

久國さんは就農1年目から、若手農家が集う青年部会や地域のコミュニティなどに積極的に参加。地域の祭りや農地周辺の清掃など地域活動を通して、コミュニケーションを図りました。

そうして、次第に周囲から気にかけてもらえるようになり、農作業をしていると声をかけられたり、新人農家でもある久國さんにアドバイスして行ってくれることが増えたそうす。

「農業はひとりではできないものだ」とあらためて感じていますという久國さん。現在は栽培技術だけでなく、農家としてのあり方や今後の展開など、近所にいる師匠のもとへ、日常的に教えるを請うために足繁く訪ねているのだとか。



収穫したての新鮮なチンゲンサイ

農業は商売人気質も大事

新設ハウスは、200平方メートルを7棟、農業施設貸与事業を利用して、リース期間は9年に設定されました。「投資が少なければリターンも少ないので、ある程度リスクは負うもの」と思って運営しています。投資のタイミングも重要ですよ。そういう意味では、農業には、商売人的な感覚も求められます」と、久國さん。新設ハウスでは、師匠と同じ、チンゲンサイを栽培予定です。初年度から黒字続きですが、さらに売上げを伸ばすための勝負どころと捉えているのだそう。農作物は出荷した分だけ収益になることから、新鮮なものをお届けられる市街地に近い立地と、量産できるスケールメリットを生かして意欲的に増収を目指されています。



露地やハウスの土を耕すトラクター

へ一緒に行って頼んでくれることに。そのおかげもあって、農家を借りて、ハウスの建築に踏み切ることができました。



この秋には久國さんの新設ハウスもチンゲンサイ一色に

Advice & Planning

ハウス建設に 貸与事業を提案

主に販売や生産資材などのご相談にお応えしています。今回は、久國さんがハウスを建てたいというイメージが具体的でしたので、農業施設貸与事業を提案しました。久國さんは、青年部会や営農組合などに積極的に参加していき、代表といたただけでなく、営農組合では代表といった役回りも引き受けていっています。異業種からの就農でしたが、日常的に近隣との関わり方、農家同士のつながりなど、さまざまなコミュニケーションを大事にして、早い時点で地域に馴染みました。面会見のいい師匠のもとで修業されたことも、久國さんの誠実さが伝わる日々の取り組みも農地の貸借にいい影響をもたらしたのではないのでしょうか。

新規就農者は農作物を作るのに一杯になりがちですが、どう販売するか具体的なイメージをもって生産することも大事ですね。



JA兵庫六甲
岩岡支店
坂田裕樹



地に足を付けて、新品目で “儲ける農家”を目指す

メロンの苗の定植に向けて
土を作っていきます。



三田に戻った2014年、西中さんがまず取り組んだのは、就農前に兵庫楽農生活センターや農業大学の研修などで知識や経験を積むこと。以前から祖父や父の手伝いをする中で、これからの農業には理論や開発力も必要だと感じていたそうです。また就農後も、父を師と仰ぎ、農家としての経験値を重ねています。

家業を継ぐためにUターン

祖父は専業農家、父は兼業農家という家に生まれ育った西中克仁さんは、2015年に就農。前職の勤務先は、神戸市北区・有馬のホテルです。16年間勤務したうち、退職前の7年間はホテル運営の中核を担う経営戦略を担い、仕事に誇りとやりがいを感じていたそう。しかしそんな折、祖父が他界し、父が「農業は自分の代で終わらな……」とぼつりと漏らしたそう。その一言が、西中さんの心にひっかかり、考え抜いた末、祖父に代わって農業に従事することを決心。有馬から実家の三田へ戻って来られました。

PROFILE	
Highinaka	Katuhito
西中 克仁	
所在地 兵庫県三田市加茂	
経営規模 施設 150㎡ 露地 239.4a	
品目 メロン(アンデスメロン)、原木しいたけ、レタス、こまつななどの軟弱野菜、米、黒大豆、やまのいもなど	
就農年月日 平成27年4月1日	

新品目の栽培に着手

西中さんは就農後すぐに、経営戦略を立てるため、家業の規模を確認。まず、水稲が約244a、界隈の高齢で引退した農家から管理を任されてオペレーターを担っている農地が約142a、黒大豆約6a、やまのいも約2a、露地野菜約1.8a、施設栽培は新設の2棟を加えて1.5aとなり、栽培面積は合計約500aに及んでいました。しかし、父がもともと兼業農家だったことから、自家消費の延長線上にあり、販売は朝市やJA直販店に米を出荷する程度に留まっていた。



原木しいたけ、レタス、こまつななども栽培

農業の新たなビジネスモデル構築を

現在新設したハウスでは、育苗したメロンの苗を定植できる時季が来るまでの間、地ならしも兼ねて軟弱野菜を栽培しています。

そこで販路拡大を目標に、新品種の栽培に着手。就農した初年度に、メロンの中でも高値で取引されるアンデスメロンの栽培を試験的に始めます。そして、研究・開発の余地はあるものの、三田の地でメロン栽培の将来性を確信し、本格的にハウスを増設しようと決心。父の「農業は地に足を付けてやらな

いとダメだ」という猛反対を受けながらも、「地に足を付けた、儲ける農家を目指して情熱を燃やしています。それを母と妻は主に出荷面でサポート、田畑での農作業は父と二人三脚で行っています。」



貸与事業で購入した動噴機

いとダメだ」という猛反対を受けながらも、「地に足を付けた、儲ける農家を目指して情熱を燃やしています。それを母と妻は主に出荷面でサポート、田畑での農作業は父と二人三脚で行っています。」



定植間近の、育苗したメロンの苗

Advice & Planning

将来性を持つ メロン栽培に期待

農家のみなさんのものに訪ねて、今後の事業展開の相談などを行うか。西中さんは、JA主催の食育・食農の出前授業にも協力いただき、農業に対する熱意を感じていました。メロン栽培に関しては、前年の試験栽培に手応えを感じ、本格的にメロン栽培に取り組みたいという相談がありましたので、貸与事業をご案内しました。競争率は約3倍でしたが、無事に審査に通り、リース期間は9年に設定しました。

主に市や県など、多種多様な農業支援事業の情報を探っています。西中さんのメロン栽培計画に合う補助金や制度を検討し、地域担当の飯田にフィードバックしました。西中さんは前職で経営戦略に携わっていただけに、事業計画等も単なる理想ではなく、実現性の高い内容でした。三田の新品種になる可能性を秘めたメロンの栽培に期待しています。



JA兵庫六甲 三田営業総合センター 営業相談員 石井玄貴
JA兵庫六甲 三田営業総合センター 営業相談員 飯田崇甲



“笑顔になるトマトを届けたい”という
一途な思いが探究心をかきたてる

おいしいトマトに育つよう
環境整備をすることも大事です。



「50年先、100年先子どもや孫の代になってもおいしいトマトを作り続けられるよう、生産技術や生態を徹底して追究していきたいです」と高見さんは話します。



PROFILE

Takami Yasushi
高見 泰
所在地
兵庫県加古川市上荘町
経営規模
施設 2,800㎡ 露地 10a
品目
トマト
(フルティカ、桃太郎ファイトとまと)、
ほうれんそう
就農年月日
平成22年7月1日



❖ 次代を見据えた農業を

加古川市で高見農園を営む高見さんは、生産者であり、15人のパート従業員を雇う事業者でもあります。おもな事業としては、ミディトマト「フルティカ」や大玉トマト「桃太郎ファイト」といったトマトを周年出荷。甘みも旨みも濃厚でジュリーシ、それでいて食感もよく、野菜嫌いな幼い子も好んで食すほど、好評を博しているそうです。このように評判の高いトマトを安定供給しているものの、高見さんは「もっとと探究すれば、さらにおいしくなるはず」と、現状に甘んじることなく、日々研究に余念がありません。同世代の農家が集う研究会にも熱心に参加し、いままで当たり前だった生産方法を根本的に見直し、理論的に解釈するといった農業生態学の観点の研究を深めているのだとか。

❖ 念願の独立。料理人から農家へ

和食の料理人から農業へ転職した高見さん。料理人だった頃は給料制で、将来の目標は独立開業でした。定年退職した父が始めた菜園で栽培された野菜の採れたての美味しさに感動し、店を持つなら、父が手塩にかけて育てた野菜を使う和食店にしようと考えていたとか。ですが、外食産業が伸び悩み傾向にある時代背景から、飲食業界での独立を考えていたが、休暇の折に父の農園を手伝ううちに農業の奥深さに惹かれ、始め、転身を考えるように。そして、妻の理解を得て退職に至りました。

僅かな農地で施設もない高見さんは、2007年から父の菜園で農業の



「フルティカ」が実る様子

❖ 創意工夫で味わい深いトマトを生産

近所に農産物直売所がオープンし、農業で生計が立てられると考えた高見さんでしたが、いざ独立に向けて始動すると、農地と施設の取得、資金調達などいくつものハードルがあったそう。それを、農業改良普及センターのアドバイザーを受けて一つひとつクリアし、2010年に念願の独立を果たしました。職人気質で学究肌の高見さんらしく、ハウスは日々創意工夫。例えば、栽培に適した室温や水温、CO₂の量、湿度のデータを測定・分析するために管理システムを設置。室内の温度を均一にするため温風を送り込むダクトは、研究を重ね高見さん自身が作ったもの。だそう。畝間にモミ殻を敷きつめ、適度に保湿するほか、膝を落として収穫するときに膝を痛めないようにクッションの役割を担っています。従来のやり方を踏襲するだけでなく創意工夫をするのが、高見さん流。



温度、炭素、水温などを管理する独自システム

「それぞれの研修先から教わったことは、技術面に加え、農家としてどうあるべきかです。志の高さに深く感銘を受けました。もっと早く農業研修を受ければよかったと思います」と、高見さんは研修当時を思い返します。



新設したハウスの外観

試行錯誤しながら独自製法のトマトを作り始めて7年になりますが、「さらにおいしいトマトを目指していきます」と、高見さんは開業時と変わらない謙虚さを持ち続けています。

Advice & Planning

無理のない資金調達を助言

年間の生産計画や貸付・補助金申請の検討・助言、研修や研究会の案内などを行っています。高見さんは異業種からの転職で、ハウスの建築費など初期費用が大きく、借入れ返済のため、新しいハウスの拡張には慎重に農業融資と事業を活用し、設備資金が不足しないように高見さんは持ち前の研究・開発力でカバーしています。また、栽培品目のトマトは通年出荷できる利点がある一方、競合も多い品目ですが、学究肌の高見さんの独自性をうまく生かして一定のファンを掴んでいます。高見農園のラベルの写真になっている双児の赤ちゃんは、高見さんのお子さんと、赤ちゃんの口に入っても安全で美味しものを作っていくという、日々使命感をもって取り組んでいるのもいいですね。



兵庫県東播磨農林局
加古川農業改良普及センター 経営課
普及主査 木村 亨



菌・微生物を加えたオリジナルのモミ殻堆肥

事業を利用して建てたハウスでは、甘味がアメリカンな桃太郎ファイトを栽培しています。平成27年3月に植え5月に収穫した1作目は、糖度が6〜7度あり成功しましたが、9月に植えた2作目は味がのらず空洞果して失敗。収穫できませんでした。「ベテランは経験があつてのカン。自分のカンだけでは成功しない」と痛切に思い、パソコンを使ってハウス内の気温や照度、湿度などの細かなデータを重視するようになりました。

さらに、近隣にトマト部会がないため、兵庫県の同年代のネットワークや農業大学の先輩・後輩、そのつながりからデータや教えを請うようにし、足りない経験を補っています。



3作目は1300株の桃太郎ファイトを生育

データや友人が経験値を補う

まずは土づくりから

県の事業を利用してハウスだからこそ、成功しなければとプレッシャーが強い反面、仕事への気合いにもなっているとか。とくに土づくりに

力を入れ、実家で採れるモミ殻を利用して、米ヌカや油かす、微生物資材などを混ぜ20日ごとに切り返し、約2ヶ月かけてオリジナルのモミ殻堆肥を作っているそう。栽培中は谷に敷きつめて次の作のとき土の中にすきこみます。モミ殻の排水の良さと土の中の酸素補給、微生物による連作障害の軽減などの効果を期待しています。加えて自家製のボカシなど有機肥料を導入することで、化学肥料を減らし、トマトの旨味のアップも狙いたいと考えています。

5年後の安定生産を目標に、モミ殻堆肥のように今はいろいろと試したいと意気込んでいます。



環境制御装置でハウス内の環境を把握



サラリーマンから専業農家へ 農業大学の研修を経て、 トマト栽培に打ち込む

微生物資材を使って土を改良。
減農薬のおいしいトマトを作りたい。



卒業後の平成26年11月に専業農家になり、引き続き父を手伝いながら、父から譲り受け土地で、たまねぎやニンニク、季節野菜などを作っていました。農業大学で研修し、自身も大好きだというトマト栽培をするため、補助金などを調べていたところ、農業施設貸与事業について知りました。

吉仲康二さんはかつてサラリーマンでした。外で体を動かすことが好きだったことから、実家の多可郡多可町で山田錦ともち米、黒大豆をメインに栽培している父の仕事を時々手伝っていました。農家の現実を肌で感じているからでしょうか、今の時代は兼業農家は厳しく、農業をするなら思い切つて仕事を辞めて専業で大きくしていかなければならないと実感。農家になることを躊躇していました。しかし、事務よりも青空の下で汗をかく仕事がしたいという思いが20代後半になってますます募り、平成25年3月に県の就農希望者向けセミナー・相談会に参加し、研修や補助があることを知って新規就農を決定。会社を辞めて平成25年9月から1年間、加西市の兵庫県立農業大学校へ通い、実践研修でさまざまな野菜を作つて経験を積みました。

20代後半で農家へと一念発起



PROFILE

Yoshinaka Kouji
吉仲 康二

所在地
兵庫県多可郡多可町中区

経営規模
施設 1,080㎡ 露地 25a

品目
トマト

就農年月日
平成26年11月1日



Advice & Planning



兵庫県北播磨県民局
加西農業改良普及センター 地域課
普及主査 増田 薫

経営の柱として選択した「トマト」は、どんな作物もそうですが、特に作る人の人となりが作物に現れると思います。2作目の失敗は苦しいけれどもいい経験だったと思います。トマト作りは奥が深いんです。難しいけれどももしろいトマト作りをこれから極めてください。応援しています。

就農計画の作成を支援

はじめに普及センターに就農相談にこられたのが平成25年3月、その足で農業大学の実践研修を申し込まれ、1年間の研修を経て、希望どおり就農されました。

就農計画は、町役場やJA職員も入つてもらつて、一緒に考え作成しました。また、同じ集落の先輩農家に親方としていろいろアドバイスしてもらえたり、周囲の応援体制にはかなり恵まれていると思います。その分、期待も大きいので、吉仲さんにとっては重圧に感じることもあると思います。



綿密な年間計画で、若い女性1人でも 少量多品目の葉物野菜の生産・出荷を実現



PROFILE

Tamura	Yui
田村 弥生	
所在地 兵庫県姫路市網干区坂出	
経営規模 施設 1,400㎡ 露地 20a	
品目 菊菜、チンゲンサイ、水菜、ほうれんそう、こまつな、はくさい、キャベツ、なす、トマト、きゅうり、網干メロンなど	
就農年月日 平成25年4月1日	
	

若い農家の活躍を知り、農業の道へ

姫路市網干区の田村弥生さんは、休日にはドライブとショッピングを楽しむ23歳。休日の過ごし方だけを聞くと都心部のOLと変わらないですが、実は21歳で独立した農業経営者です。きっかけは、高校2年のときに見たテレビ番組。その番組を通じて、20代の農家が活躍する様子を知り、衝撃を受けたそう。

「番組を見るまでは、農業は年配の方が携わっているものだと思っていました。若くても農業の世界で道が開ける可能性があることを知り、進路の選択肢に農業を加えました」と、田村さんは当時を振り返ります。

もちろん田村さんは農業は未経験。米農家だった祖父の田植えを手伝ったことはありますが、家業ではないため、受け継ぐ田畑もハウスもなく、本格的に従事したことはありませんでした。そこで田村さんは高校卒業後、伝統野菜の網干メロンの生産者として名高い、開発農園の開発明弘さんのもとへ。栽培技術から農業経営まで、広く学ぶことになりました。



地道な作業が多いですが、やりがいを感じています。

空きハウスと支援制度で独立

修業開始から3年、無我夢中で農作物と向き合ってきた田村さんのもとに、借り手を探している空きハウスの情報が舞い込んできます。網干地区で空きハウスが出回ること自体滅多にないうえに、築1年ほどの比較的新しい物件というのは、将来的には独立を目標としていた田村さんにとって魅力的な話でした。その一方、労働力が1人でも運営できるのか、資金繰りや事業計画などの不安要素も。ですが、農業改良普及センターへ相談すると、やり方次第で問題点が解決できると知り、田村さんは覚悟を決めたそうです。



出荷直前の菊菜

営に導入できました。このように各種施策を活用することにより、就農の初期段階から大きな借金を抱えることなく農業に専念できる環境が整えられています。

田村さんが取り組む栽培品目は、葉物野菜が中心に約10品目。兵庫県南部に位置する網干地区の安定した温暖な気候にも合っており、30日から45日で出荷できることから、資金化できるサイクルが短い点も、葉物野菜に着目したポイントとなったそうです。

網干地区の「農業改革者」になりたい

「地道な作業が多く、気を抜けない仕事ですが、だからこそ面白さを感じています」と田村さん。独立して2年が過ぎ、いかに効率よく出荷できるか、綿密な年間生産計画が大きな意味を持つことを実感しています。計画を忠実に実行するのは容易ではありませんが、ハウスと露地の栽培をどう稼働させるかを工夫するのも面白さにつながっているのだとか。



土を耕すための管理機

料金を支払って自身の農業経営に取り入れる点に特徴があります。また、JAA兵庫県信連の融資を受けることにより自己負担分の利子を軽減できるために、より負担が少なくハウスを経

営に導入できました。このように各種施策を活用することにより、就農の初期段階から大きな借金を抱えることなく農業に専念できる環境が整えられています。



リースしているハウス

Advice & Planning

技術面と資金面の2方向から支援

就農者に技術向上などに関する情報提供やアドバイスをしています。田村さんのように若い農家が馴染みのない地域で独立される場合、近隣の住民や同業者とのコミュニケーションも必要です。技術向上や経営、地域への溶け込み方などのヒントが得られると思います。若手農家が集う研究会への参加を勧めました。田村さんも参加して研鑽を積んでいるようです。

就農支援の担当として補助事業、制度資金等の窓口となり、情報提供や各種の手続きを行っています。



兵庫県中播磨県民センター
姫路農業改良普及センター
地域課 担当課長補佐 井澤嘉隆
兵庫県中播磨県民センター
姫路農林水産振興事務所
農政振興課 臨時職員 渡邊美谷



大粒の章姫は身が締まり甘い果汁が滴ります

さまこと話す機会を得て、品種の説明ができたり、逆に消費者のニーズも聞けることもメリットだそうです。
順風満帆に新規就農をしたように見えますが、上郡町での手法を踏襲して佐用町で苗作りをしたため、病気になり別途購入したという苦い経験も今季にはありました。もともといちごは病気が害虫に弱い繊細な品目ですが、今まで栽培してきた土地との環境の違いも強く実感し、来年以降に備えて温度などのデータをしっかりと取るようになりました。



温度や湿度、空気の流れを自動で管理



高設栽培では空気の層を根元に入れています

高設と各装置の導入で作業が楽に

定植は就労していた時のプランターから、灌水と培地加温の両装置を備えた高設栽培となり、就労時に比べて立ったまま楽に作業ができるうえ、管理も簡易になったそうです。とくに培地加温装置は、配管を巡る湯を通してダイレクトに土を温めることができるので、生育の反応が早く地温や生育が安定し、新システムを取り入れて良かったと感じています。さらに、循環扇設備と換気装置なども導入して温度や時間により自動化することで、朝4時に摘んだ瑞々しいいちごを、ハウスを一時離れて田邊さん自身で午前中に配達することも可能になりました。直接、店舗の方や客

いちご栽培で一本立ちを目指す

今後は3年をめどに、農業経営をひとりで安定させることが目標です。収穫量はもちろん、糖度は14度平均と味わいにもこだわります。生で直接実を食べるいちごだけに化学農薬を極力減らせるよう、次回には天敵を利用した農法も取り入れる予定とか。情報交換のため、地元農家にとどまらず、他エリアのいちご栽培農家とも交流。販路でも営農指導員の豊永さんの紹介以外に、小売店やレストランなど独自に広げたいと考えています。

農業以外にも佐用高校の生徒に自身のいちご栽培の経験を伝える臨時講師を務めたそうですが、今後も地元と若者、農業のために貢献。将来軌道に乗ればハウスを増設し、中国自動車道の佐用インターチェンジから近い利点を活かしていちごの観光農園に取り組むことも夢だそうです。



いちご栽培ひと筋 佐用町の新しい特産品として 地元へ新風をもたらしたい

子どもたちがもぎたてのいちごを
食べた時の笑顔が一番うれしい。



として、自己資金で育苗ハウス2棟計300㎡を設備後、事業を活用して田邊さんがひとりで栽培できる最大敷地面積に近い7.2m×65mのハウス3棟計1404㎡を7月に着工し、8月下旬に完成。9月に植えた「章姫」と「紅ほっぺ」の1作目は大ぶりの赤くジューシーな実が鈴なりに育ち、11月下旬より収穫がスタート。5月末までの収穫終了を目標に尽力しています。

雇用就農から独立就農へ

兵庫県南西部、岡山市に隣接する佐用町で平成27年に高設いちご栽培を始めた田邊貴之さん。兵庫県立農業高等学校で野菜栽培を学び、赤穂郡上郡町の兵庫ファームへ入社後、いちご栽培をメインに約9年近く就労してから地元で独立をしました。

独立にあたって資金面等で光都農業改良普及センターに相談したところ、タイミング良く今回の農業施設貸与事業を知りました。就農計画の資料作成を中心にセンターよりさまざまなフォローを受け、平成27年1月より農業経営を開始し、同年2月に独立就農。3月には無事就農計画の認定を受けました。ハウスや装置などの設備にあたって業者を紹介してもらったほか、同じシステムを同時期に始めた別のいちご栽培農家と県内外の施設見学し、今も情報交換や勉強会もしているそうです。

PROFILE

Tanabe Takayuki
田邊 貴之

所在地
兵庫県佐用郡佐用町横坂
経営規模
施設 1,700㎡
品目
いちご
就農年月日
平成27年2月26日



Advice & Planning

設備や販路でサポート

今回の支援では、主にハウス設備業者の紹介や事業の申請手続き等でお手伝いをさせて頂いていただきました。

栽培のノウハウについては、佐用町でいちご栽培をしている人は以前にはいなかったため、長年いちご栽培をメインに就労してきた田邊さんの方がむしろ詳しくいきました。情報提供はできるだけ伝えていくつもりですが、田邊さんにも町のいちご栽培の第一人者として頑張ってもらいたいと思っています。

今後は主に販路のアドバイザーとして寄り添っていきたくです。今はJA兵庫西管内の旬彩蔵・野菜市で、朝採れの新鮮ないちごを出荷してもらっていますが、それらが売れるようボツボツの工夫のほか、販路自体も市場やスーパーなど幅広く拡大していきたいです。

同時に西播磨の施設野菜の経営モデルとして、今後も支援していきたいと考えます。



JA兵庫西
佐用富貴生活センター 係長
営農指導員(TAC) 豊永雅典



ハウス栽培で通年雇用者を確保 さらなる躍進を図る農業生産法人

話題のハーブや洋野菜なども栽培していきたいですね。



ルやレストランの食品残渣を神戸の産廃業者で乳酸菌入りの液肥にしてみたら、豊岡の土に混ぜ込んで再活用。地元特産の但馬牛の畜産家と連携し堆肥を作るなど、地域のエコサイクルで、環境保全や共存共栄にも力を注いでいます。現在はお二人のほかに、常時雇用者9名、季節雇用者を含むパート10

神鍋高原のある豊岡市日高町は火山灰を含んだ柔らかな黒ボク土と昼夜の温度差のある気候で野菜の生育に向いています。しかしながら近年、地元で農家の担い手が減って耕作放棄地が増加。そのことを憂いた建設業を営む株式会社巴建設の代表取締役・新免将さんと有田有限会社田村土建の専務取締役・田村寛さんが、建設で培ったノウハウを活かして農地を再生と同時に、農業という建設以外の雇用を生み、地域経済を活性化させたいと7年前にスタートさせた農業生産法人が、株式会社Tovookaです。コンセプトは「地域の循環」豊岡で栽培した農作物を、神戸や姫路などの都会に持って行って食べてもらい、ホテルやレストランの食品残渣を神戸

建設業者が始めた異色の農家



PROFILE

(株)Teams

所在地
兵庫県豊岡市日高町
経営規模
施設 1,000㎡ 露地 130a
品目
軟弱野菜、ズッキーニ、トマト
設立年月日
平成21年6月17日



名が働く大規模法人に成長し、水稲をはじめ、にんじん、キャベツ、じゃがいもなど多数の野菜を栽培しています。とくにたまねぎやトマトなど野菜11品目はひょうご安心ブランド認証も取得。農業を減らした安全・安心な生産に取り組み自社ブランド「楽農や」を発足し、ホームページなどで栽培状況を公開しています。

事業最大級のハウス6棟を建設

通年雇用を増やし、農業法人としてのさらなる成長を計画していますが、冬場は雪の下で育つにんじんなどがあるものの、露地栽培だけでは全体の生産は下がるのがネックでした。その問題を打破すべくハウス栽培の拡張を思案していた時に、JAたじまの稲葉係長から農業施設貸与事業の話が舞い込んできたそうです。ハウスは今回の事業最大級の6棟（1528㎡）を増設。ズッキーニやトマト、からし菜などの薬物野菜を中心に栽培し、6月中旬以降にJAへの出荷を予定しています。薬



新鮮さを大切に薬物野菜は午前中に出荷

農業の新しいカタチにも期待

今回新しく建設するハウスは、近くの水路から水の確保はできますが、もともとは水田のため、畑への土壌改良が今後の課題だと言います。「1年目2年目はともともある土の力で上手く栽培ができるのですが、土の力がなくなる3年目ぐらいから不作になります。土の状態を把握し、堆肥を入れるなど改善していきたい」と取締役の田村さんも語ります。

株式会社Tovookaは、建設業や飲食店、団体職員など他業種出身の20〜40歳の若手を中心のため、農業技術はまだまだ未熟ながら、ハウスの建設や耕作放棄地の再生、書類作り、営業など、従来の農家が苦手とする分野が得意で発想も柔軟なのが強み。ハウス拡張にともなう会社の発展で、農産物の生産にとどまらず、地元加工業者と連携した商品作り、企業や学生の研修受け入れ、農村塾の開校など、同社ならではの農業の新しいカタチにも期待が寄せられています。



ごちそう野菜でPRする「楽農や」ブランド

物野菜は約5年間取り組んできたワサビ菜に加え、当事業をきっかけに、イタリアンパセリやセルパチコ、カーボロネロなどのハーブや西洋野菜といった品目にも新たに挑戦し、安定供給や特産化を目指して試作を始めています。



青々と育つ自慢のからし菜

Advice & Planning

農地拡張で土を休ませる余裕も

今回の農業施設貸与事業はハウスで作るものであれば作物の制限がなく、柔軟な思考を持つTovookaさんに合っていると思いをかけさせていただきました。栽培予定の品目に薬物野菜を加え、ハーブや洋野菜の育成にも取り組み、地元のレストランチェーンなどへの出荷も考えられるなど目のつけどころもですが、今後の成長が楽しみです。地域内流通に取り組むなど地域に根ざしながら成長をしている法人です。今回の農業施設貸与事業でハウス栽培の面積が大幅に増えたことで、夏にはハウス内の土を休ませて太陽熱土壌消毒もできるようになります。来年度はハーブ栽培用にベレットボイラーも取り入れるそう。より上手く土をまわせるよう、技術的なアドバイスや情報の提供をこれからも続けたいと思っています。今回を機にさらなるステップアップにも注目しています。



JAたじま 営農生産部 営農企画課 係長兼営農指導員 稲葉博通
兵庫県但馬県民局 豊岡農業改良普及センター 経営課長 高階智世



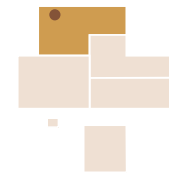
安定性のある グラウンドカバー 1 本に絞り 夫婦で新規就農

グラウンドカバーを専門に
夫婦ふたりで頑張っています。



冬に日本海の荒波が打ち寄せ、身を切るような北風が吹きさぶ兵庫県最北西端の旧浜坂町「浜坂」は寒さや風は厳しいですが、実家の旧温泉町より積雪が少なく農業に適していますと語るのは、この地で平成25年4月に新規就農をした福井大悟さんです。

福井さんは水稲を中心に生産している農家出身で、地元の農業高校、園芸専門学校を卒業後、20歳で農業生産会社に就職し、約7年間、野菜作りの仕事を主に従事していました。独立にあたって興味を寄せたのがグラウンドカバー。地表や壁を覆う植物で、公園やビルの屋上などの緑化に欠かせません。実は新温泉町では専門農家がいるメジャーな品目で、福井さんも「取引先がはつきりした契約生産だから、安心して取り組みやすい」と、グラウンドカバー1本に専念すべく、仕事を辞めて平成24年に1年間の研修を受け、平成25年4月に独立。現在はリュウノヒゲやヘデラ類など約15種類の植物を、奥さんの好美さんと二人三脚で生産しています。



PROFILE

Fukui Daigo
福井 大悟

所在地
兵庫県美方郡新温泉町清富

経営規模
施設 480㎡ 露地 30a

品目
グラウンドカバー・プランツ

就農年月日
平成25年4月1日



頑丈なハウスで冬季も安定出荷

ビニールハウスは、グラウンドカバーの栽培に大きなメリットをもたらします。天候に左右されずに作業できるうえ、公共事業が多く発注も増える冬場に、安定して出荷ができるからです。福井さんも以前にビニールハウスを持っていたが、弱々しく狭いものでした。頑丈な新しいハウスをと考えていたところ、農業改良普及センターより農業施設貸与事業の話聞き、平成27年10月に長さ40m×幅6mのハウス2棟（計480㎡）が完成しました。

ハウスの中央の柱は太く、三角を描くように斜めからもしっかりと2本の柱が



農地に湧く水を水源に使っています

難しい品種に挑戦し特注を狙う

ハウスの中で夫婦が枯れた葉をもくもくと取る作業中に、突然メールの受信音が響きました。グラウンドカバーの受注は大阪の卸会社からメールで届き、スマートフォンで内容をチェックするそうです。なんとも新鮮でした。卸会社からの注文を受けるだけでなく、福井さん側からも作っている種類や数を知らせたり、珍しい品種は写真を送付することでPRをし、福井園芸だからできる特注をとっていききたいと計画中です。

奥さんの好美さんは夫婦で就農するまではスーパーで勤めており、雇われから自営は責任感が違って大変さを痛感しつつも、「自分たちが植えた植物が健やかに育つことや出荷数が増えて大きくなっていくのは楽しい」とやりがいを感じています。夫である福井さんも「グラウンドカバーは世間一般では、まだまだ知られていない農作物ですが、興味を持ってもらえるよう、今後も事業を大きく広げていきたい」と目を輝かせました。



作るのが難しいバリエータにも挑戦

花が咲くもの斑入りのものなど、栽培するのが難しい希少品種にもどんどんチャレンジをしていくそう。一方、土や肥料の種類や割合を変え、品質はそのままにコスト削減できるよう地道な努力も惜しみません。



スマートフォンで受注のやりとり

Advice & Planning

グラウンドカバーで就農

グラウンドカバーがどんな植物かあまりピンとこない方も大勢いらっしゃるかと思います。ハウス栽培でお馴染みのトマトやいちごなどは異なり、日照時間が少なくても育てることができるため、天候不順な兵庫北部にも適した農産物です。新温泉町では栽培に取り組んできた歴史が約30年間あり、福井さんのようにグラウンドカバー専門の農家として頑張っているところが軒ありです。先例が多くフォロのしやすい地域に根ざした品目に加え、契約生産・販売が基本なので安心感があり、これから農業を始めたいと考えている人にもおすすめです。ぜひ一緒に頑張っていきたいですね。

とくにこの地域でハウスを建てる場合は、風や雪などの対策が必要になってきます。業者の紹介はもちろんです。ビニールの種類やパイプの太さなどハード面だけでなく、売上げに合う敷地面積などソフト面の両方で、福井さんと同様に丁寧にアドバイスさせていただきます。



JAたじま 営農生産部 営農企画課 課長 福井 徹



こだわりの栽培方法で作るトマトに 1年待ちでも買いたいというファンも

植え付けるまで、トマトの苗は
余分な芽を取るなど手入れをします。



したが、研究の結果、他者と味の差別化を図りにくく感じ、再び栽培品目を変更。試行錯誤を繰り返して、8年前から生産の大半をトマトにシフトしたそうです。栽培品種は、子どもにも人気の「桃太郎ファイト」です。

サラーリマンから農家へ

証券会社で管理職を務めていた坪井さんが農家へ転職したのは2002年のこと。もともと独立志向があったので、自分で何か作りたいと考えていた坪井さん。父が兼業農家で、農地、農業用機械が揃っていたことから、初期投資を抑えて始められる点も決め手となり、「坪井農園」をスタートさせました。坪井さんが最初に栽培を手がけたのは、朝来市名産である岩津ねぎとピーマンです。しかし、ピーマンはその年の気象条件などとも関係して、思うような収益が得られませんでした。また、岩津ねぎも相性がよくなかったことから、2年目からは栽培品目を変更。年間繰り返し出荷できる青ねぎにしました。

PROFILE

Tuboi Yoshihisa
坪井 良尚

所在地
兵庫県朝来市山東町三保
経営規模
施設 4,350㎡ 露地 17a
品目
トマト(桃太郎ファイト)、
いちご、たまねぎ苗
就農年月日
平成14年10月1日



土にこだわった栽培方法で差別化

「桃太郎ファイト」はトマトのなかでもメジャーな品種のため競合が多い品種です。しかし坪井さんは、手間がかかってもおいしいトマトを作ろうと考えられたそう。特にこだわったのは土です。トマトは肥料や水を一気に吸収する性質があるため、微生物の働きにより肥料を分解して、ゆっくり吸収させるよう、バクタモン栽培を取り入れました」と坪井さん。

肥料には、昆布やにがりなど、海洋性のマグネシウムを使用。こうしたこだわりの栽培方法では、一般的な生産方法の3分の1しか出荷できませんが、自然の甘みや旨みを凝縮した坪井さんのトマトを、1年待っても買いたいというファンが付くようになりました。

「トマトはどこに出荷しても売れるという自信が持てました」と坪井さんは話します。しかし、坪井さんのトマトの人気の高まる一方、生産量を一気に増やせずにいました。



土を耕すときに使う管理機

そこで、独立時は1人でやっていた坪井さんでしたが、2013年、県の新規就農インキュベーター事業で従業員を1人を受け入れることになり、労働力が2人になりました。



収穫期の最後に穫れたトマト

従業員を雇い、ハウス拡張を決意

トマト以外の作物も栽培しようと、隙間時間を活用して手作りで5aのハウスを建てた坪井さん。2015年からそのハウスでいちごを栽培していますが、2人体制の労力を生かされていなく感じていたそうです。

従業員を雇い入れて、冬場も安定的に収益を得るためには、ハウスで栽培する必要があると考えた坪井さんは、本格的にハウスの新設を検討。そして、今回の17aのハウスを新設し、自慢のトマトを増産する決意をされました。「急に生産量が増えるため、今年の収穫期がどうなるのか、うまく仕事が回るか、予測不能です」と不安も口に出ますが、その一方、農業の魅力を尋ねると、「たとえ思うように行かない1年でも、計画を見直し次年にリカバリーできる点」と、力強く語る坪井さん。その言葉から、日々変化のある農業の魅力が無限であることが伝わってきます。



坪井さんの4人のお子さんをモチーフにしたトマトの箱

Advice & Planning



JAたじま 営農生産部 営農企画課
TAC(担い手担当) 高島茂樹

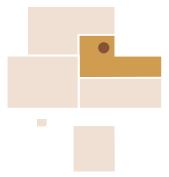
坪井さんのトマトを待つ方が多くいらっしゃるそうですので、今年は新ハウスからの初出荷が楽しみです。

施設栽培の先駆者を応援

ここ朝来市は、兵庫県の北部、但馬地域に位置し、南部にある淡路島と比べると日照時間が短く、冬は積雪がある地域ということもあって、露地栽培には不利な条件が揃っていると言えます。もともと米農家が多かった土地柄ということもあり、施設栽培の農家としては坪井農園がこの地域の先駆者となります。そういうこともあって、坪井さんがハウスの新設を検討していると知り、農業施設貸与事業を案内させていただきました。



農薬・化学肥料不使用野菜の個配で ファンを獲得しさらなる収穫量拡大へ



PROFILE

Umeuchi Minoru
梅内 稔

所在地
兵庫県丹波市市島町白毫寺
経営規模
施設 700㎡ 露地 130a
品目
根菜、葉物野菜、水稲、だいずなど
就農年月日
平成23年4月



無農薬農業の研修に合格

梅内稔さんは、大学を出て地元のスーパーに就職していたが「一人で何かやりたい」「おいしいものを食べたい」という想いから有機農業・無農薬栽培に興味を持つようになった。そこで、兵庫県有機農業研究会の研修の募集に応募したところ合格し、現在働く丹波市市島で約1年半、無農薬栽培を学びました。その後、鹿児島県で1年、茨城県の日本農業実践学園で1年さらに学び、市島町に戻って就農。最初は約60aの規模で、少量多品目の栽培を始めたそうです。しかし最初は、直近で学んだ茨城県の土壌や環境と同じイメージで栽培を行ってしまい、土壌や環境が違うことにより、収穫に失敗することもあり、収穫が減ると出荷も減り、量も予測できなかったため、販売ルートの確保もうまくできなかったといいます。試行錯誤を経て、約3年後くらいから、だんだんと収穫量が安定し、また奥様のサポートにより関東地方を中心に個人宅配先が少しずつ見つかったことで、事業が軌道に乗り始めたそうです。



新設のハウスに堆肥を入れる準備をする梅内さん

個配を中心に販路が安定

現在就農から約5年。自身の育てる野菜に適した土地を求め、周囲で移転と田畑の増減を繰り返して、現在は水稲10～20a、野菜100～200aの農地を営営する梅内さん。水稲はもちろん根菜、葉物、果菜、黒だいずなど幅広い品目を季節に合わせて育てています。それらの作物は全て農薬、化学肥料不使用で、販路は、個配、スーパーの地場産コーナーなどでの販売、レストランへの卸などを行っています。なかでも個配では、小さな子供のいる主婦を中心に、梅内さんの「安心でおいしく、価格を抑えた野菜」への支持が厚く、リピーターも多いそう。季節により約10品目を織り交ぜて送っているそう

ニーズに応じて安定供給を

この2月にビニールハウスが完成し、3月からはほうれんそう、こまつなど葉物野菜の栽培を始める予定だという梅内さん。「個配のお客様に、できるだけずっと自分が育てた野菜を食べてもらえるようにしていきたい」と、夢を語ります。また「無農薬野菜を求める人が、手が届きやすい価格で手に入られる環境にしていきたい」という大きな目標も。そのために、まずはご自身の育てる野菜の品質の向上と、収穫量のさらなる安定を目指して日々研究を重ねておられます。さらに、今後は地域で一緒になって、無農薬野菜を育てられる人をもっと増やしていきたい、という想いも語って下さいました。



甘味が強く、子どもにも喜ばれているにんじん



えぐみがなく味わいの濃い梅内さんのほうれんそう

うですが、特に葉物野菜は喜ばれるため、「そのニーズに応え、もって安定して供給していけるようにしていきたい」と考えていたところ、参加する青年農業者組織に県の農業施設貸与事業の案内が。梅内さんは就農5年以内で、認定新規就農者として認定されると補助率が2分の1になるということで申請したところ、これまでの経験と現在の経営、収入拡大の見込みなど着実な計画を承認され、今年、350㎡のビニールハウス2棟をリースすることになりました。



耕運に利用しているトラクター

Advice & Planning

経営計画の作成を支援

梅内さんが所属する青年農業者組織「大空の会」に、私共のセンターから「農業施設貸与事業について呼びかけたのが、きっかけです。その際何人か手を挙げられましたが、実際経営試算をしてみても、まだ時期早尚な方もいました。その中で梅内さんは就農5年以内で、その中で補助率が2分の1になる「認定新規就農者」になることができ、また、ハウスを新設するとどう収入が上がるか、よく分かっておられました。そこで私達は認定を受ける申請のために、経営計画の作成のお手伝いさせていただきました。ただ梅内さんは、簿記の資格も持っておられるので、本当に補助的なことしかしていません。無事認定を取られて、今後が本当に楽しみです。梅内さん以外にも、若手農家の方には「事業を拡大したいが投資が難しい」という方が多くいらっしゃると思いますので、どんどん相談していただきたいです。



兵庫県丹波市市島町 丹波農業改良普及センター 経営課 担当課長補佐 松本有一



芳醇な甘みのある瑞健は旧一宮町の特産



丁寧に箱詰めされたトマト。出荷までを一人で行う

島本さんに就農した感想を伺うと「たどり着いて未だ山麓と心境を語る島本さん。別のハウスでは少し違った栽培方法を取り入れ、より良い生産方法を追究しています。『農業はクリエイティブな仕事で、作ったものは必ず人の役に立つので、やりがいを感じています。自分の責任の中で、自分で時間の管理ができるのも性に合っています。』と農業に対する熱い思いを語ります。

今後はより良い質を求めて、技術を確立し、品質を安定させることが目標。近い将来には作型をもう1棟増やし、雇用に創出することを目指し、日々励んでいます。

就農から2年後、島本さんはさらに農地の利用権を設定し、「農業施設貸与事業」を利用して中古ハウスのリースを受ける事にしました。骨組みだけあったハウスに新たにビニールを張り、630平米のハウスを新設しました。新設したハウスは元田んぼだった土地で、耕す大型機械もなく、生産から出荷まですべて一人で行わないとならない島本さんには、作業負担が少なく効率の良い栽培方法が必須でした。そこで島本さんが取り入れたのは、土の緩衝能力を生かしつつ、灌水と施肥を同時に行う養液土耕栽培です。自動で水と肥料を混ぜ合わせ、チューブから施用する養液土耕栽培システムを使い、作業を軽減。さらに、時間ごとに自動で必要最小限の液肥を与えることで、作物は効率よく水と肥料を吸収できるため、質の向上や増収にもつながります。また、大型機械を購入する必要がなく、初期投資も比較的低コストで環境にもやさしい栽培方法です。



自動で液肥を作り施用する養液土耕栽培システム

養液土耕栽培で効率よく

名品種「瑞健」への思い

一宮トマト部会では生産する品種を統一しており、島本さんが栽培するのは古くからある「瑞健」という品種のトマトです。糖度と酸度が高いだけでなく、パランスの取れた濃い味のする「瑞健」は、皮が薄く滑らかな食感を持ち合わせています。尖った果先とオレンジ色がかかった色が特徴で、果先にスターマークと呼ばれる白い筋が多いほどおいしいといわれています。栽培時に水を絞れば糖度が上がり、糖度8度を超えるものはJ-A淡路日の出が商標登録している「はるる」というブランドで売り出されます。一度島本さんの元に違う品種のトマトを育ててほしいという依頼があったそうですが、島本さんは頑として断ったそうです。島本さんは「瑞健」にこだわり、わが子のように愛情をたっぷり注いで育てています。

就農後の感想と将来の目標



養液土耕栽培で効率良く生産し 地域の名産と伝統の品種を守る

丁寧にトマトを収穫する島本さん



トマトの産地として知られている淡路市の旧一宮町尾崎地区で、島本さんがトマトの生産を始めたのは4年前。同地区の知り合いの技術者から、「離農する方がいて土地を貸してくれる」という話を聞いたのがきっかけでした。加古川市の農業高校を卒業後、大分や香川など、各地の農家を住み込みで働いていた島本さんが「農業をするなら地元近くで」と思っていた矢先でした。

農家での経験があったとはいえ、いきなり一人でトマトの生産をすることは難しかった。最初の一年は兵庫県担い手育成総合支援協議会が実施する「新規就農離陸加速モデル推進事業」に参加し、親方農家の元でトマトの生産について多くを学びました。その後、1000平米の土地を借り、ハウス2棟で栽培を始められました。



PROFILE

Shimamoto Kohai
島本 弘平

所在地
兵庫県淡路市尾崎
経営規模
施設 1,700㎡
品目
トマト、きゅうり
就農年月日
平成25年4月1日



グッドな出会いで農業の道へ

Advice & Planning



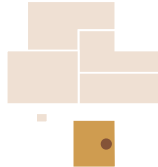
兵庫県淡路市農政局
洲本農林水産振興事務所
農政振興第1課
課長補佐 山口洋

瑞健とトマトの産地の
貴重な担い手

島本さんが就農した淡路市の尾崎地区は古くからトマトの産地として有名です。周囲の地形の影響もあり、冬でも暖房を使わずにトマトを栽培できる淡路島でも最北の地域で、暖房のコストが低く、環境への負担が少なく生産が可能です。兵庫県内でも淡路市は新規就農者の多い地域ではありますが、それでも年々農業後継者が少なくなっているのが現状です。尾崎地区の特産である「瑞健」は本場においてトマトですが、実が柔らかいなどの理由から流通には向かないため、大きな収益を上げるのは難しい品種です。そのため、種を供給するメーカーが、今後「瑞健」の種を供給しなくなるという話もあります。そんな中、島本さんは「瑞健」の産地と「瑞健」の貴重な担い手として頑張りたいと思っています。また農業を一人でやるのはとても大変です。島本さんにも雇用を創出していただけるよう関係機関とともに支えていきたいと思っています。



新たな農法を取り入れ 計画的な栽培と販売で安定した 収益を獲得。



PROFILE

Inoue Masatoshi
井上 雅俊

所在地
兵庫県淡路市浦

経営規模
施設 2,640㎡

品目
カーネーション、水稲、直売用野菜

就農年月日
平成16年4月1日



両親を説得し念願の就農へ

淡路市浦のカーネーション農家に生まれ育った井上雅俊さんは、大学卒業後4年間、サラリーマンをされていました。卒業後に家業を継ごうとしたところ「大変だから」と継がせてもらえなかったそうです。しかし、カーネーション農家への夢はあきらめきれず、サラリーマンをしながら1年かけて関西圏の花屋を一人で約400件回り、どんな花が売れているかなど、独自に市場調査をされたそうです。その後、再度両親に家業を継ぎたい意思を伝えると、その熱心な姿勢が届け、三代目として念願の就農へと至りました。現在は300坪のハウスで、年に2万4000株を栽培、ブライダルなどのイベント需要を主に、バステルカラーのカーネーションを卸しています。

カーネーションが
まっすぐ育つように
芽かき作業をする
井上さん



画期的な栽培と販売の取り組み

井上さんは野菜農家などとネットワークを作り、栽培や販売に関する様々な勉強を続けています。「花農家は戦略が遅れていると感じました。まだ伸びしろがある」と、計画的かつ新たな栽培や販売方法を多く取り入れています。例えば、野菜農家が取り組んでいた天敵による害虫駆除を、花農家では日本初の試みとして、メーカーと共同開発し導入。結果、農薬散布を通常の半分以下に減らすことに成功しました。また、重油を使わないヒートポンプ（電気式加温機）もいち早く取り入れ、コストと環境への負担を軽減しています。



害虫を天敵で退治する環境にもやさしい農法をいち早く導入

ハウスをもう1棟増やし 事業を拡大

今年、井上さんは県の農業施設貸与事業を活用してハウスを1棟JA日の出からリースし、栽培面積を倍にする予定です。そこでは収穫時期を半年ずらし、繁忙期と閑散期の作業を分散化。一年を通じ、より安定して供給できるようになります。年間契約や「予約相対取引」もやりやすくなります。また、季節に合わせて新たな色のカーネーションの栽培も始めます。様々な取り組みを行い、実績を上げている井上さんですが、「きれいな花を咲かす技術は両親にありません。微妙に水や肥料の量を調節し、1、2か月後をイメージできる技は本当にすごいと思います」と謙虚な姿勢も忘れません。今後はネット販売にも取り組み、「予約相対取引」の割合を増やしていく予定です。将来的には、10aで生計を立てられる経営を目指しています。



環境にやさしいヒートポンプの暖房

また、販売面ではカラーをミックスした花の販売を他に先駆けて実施。1ロットに4色を入れて販売し、小さな生花店でも買いやすくなりました。ロット内で色を選べるようにすることで付加価値も付け、単価アップも図っています。さらに、カーネーションに定価を付け、年間契約で定量を販売する「予約相対取引」も始めました。競りによって値段がつく花は、一本がいくらで売れるか分かりません。だから、計画的な収益を算出しにくいんです。「50円で売れたのではなく、『50円で売ったにしたい』と井上さん。『予約相対取引』はその狙



1株から7〜12回の出荷ができるカーネーション本収穫

Advice & Planning

カーネーション産業を 牽引するリーダー的存在

兵庫県は全国でも有数の生産量を誇るカーネーションの産地です。特に淡路島はカーネーションの栽培が盛んで、約80年の歴史があります。しかし、カーネーションを育てるためには、立派なハウスなど設備投資がかかるため、新規参入者が取り組むにはなかなか難しい作物でもあります。また、近年では安価な輸入花の流通も増え続け、日本の花農家にも大きな影響を与えています。そんな中、研究熱心な井上さんは様々な栽培や販売方法を自ら見出して取り組み、収益を上げていっておられる成功者です。また、カーネーション若手連絡会の中心人物として活躍し、淡路島だけでなく兵庫県のカーネーションを引っ張っていく貴重な存在でもあります。今後、淡路島のカーネーション産業の発展のためにも、引き続き行政や農協の支援を続けていくとともに、井上さんには大きな期待も寄せられています。



兵庫県淡路市農林水産振興事務所
農政振興第1課
課長補佐 山口 洋

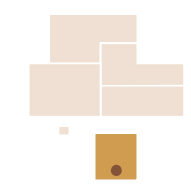


安定的な生産と雇用を生み出す 将来を見据えたモデル事業

防草シートを敷き、使わなくなった田んぼを
保護する若者たちの就農を目標に
アグリアイランドで農業のノウハウを学ぶ



また、未来の農業を担う若
者を育成するのもアグリ
アイランドの主な事業の一つ。
一時的な労働ではなく、就農
を目標とする若者を集め、農
作業の教育をはじめ、農地提
供や農機具のリースなどを
実施しています。



PROFILE

(株)アグリアイランド

所在地
兵庫県南あわじ市賀集
経営規模
施設 2,200㎡
品目
トマト
設立年月日
平成24年10月1日



農家支援と若手の育成を担う

たまねぎやレタス、はくさいなどが兵庫県内一の生産
量を誇る淡路島。しかし人手不足や農家の高齢化が問題
となっています。株「アグリアイランド」はそんな農家を
助ける「援農」活動を目的に平成24年に設立されました。
「農家を支援したい！」と立ち上がった、JAあわじ島の
選果場で働いていた有志が集まった「援農あわじ島」が
前身で、その意思を受け継ぎ、収穫の手伝い、病気や事故
で働けなくなった農家の代行、使わなくなった田畑での
生産活動や管理など、業務は多岐にわたります。

ダッチライト型ハウスでの試み

南あわじ市で生産している農作物はたまねぎなどの露
地野菜が主。しかし、収穫時期の集中、自然災害による打
撃を受けやすく安定した収入と雇用が見
込めないなどの問題があり、後継者がな
かなか確保できないのが現状です。また、淡
路島の過疎化と、厳しい自然環境下でたま
ねぎや白菜などの重い露地野菜を育てる
重労働が拍車をかけています。そんな問題
に立ち向かうべく、(株)アグリアイランド
はJAあわじ島が建設した、オランダ型の
軒高ダッチライト型ハウスを借り受け、安
定した収入と雇用を生み出す試みを、
2016年4月から実施予定です。



換気することにより夏でも暑くなりすぎない

生産性を実証し後継者を生む

ダッチライト型ハウスで年間40tの生産目標が達
成されると、安定した収益とシフトを組める雇用が
成立します。また、厳しい自然環境下の
作業や重労働を減らし、「儲かる農業」
を実証することにより、若者の就農意
欲を掻き立て、後継者を創出するの
目的です。さらに、近年では人手不足の
対策として、中国、ベトナムなど東南ア
ジア諸国から外国人技能研修士を迎
え、技能実習にも取り組んでいます。
今年の4月には農畜水産物直売所の
「美菜恋来屋」で、トマトをはじめとす
る野菜を使ったスムージーのショッ
プも展開予定。割れてしまったものや形
のいびつなものなど、流通に不向きな野菜の利用に
も取り組み始めます。



ダッチライト型ハウスで栽培する
大玉トマトの「ハウス桃太郎」

栽培予定。1本の株から
多数収穫できる26〜27段
の長期長段取り方式を採
用し、需要の多い「ハウス
桃太郎」を生産します。10
aあたり一般的には年間
25tの収穫量の中、40t
の収穫という高い目標を
掲げています。



産地直売所の「美菜恋来屋」

援農活動では
農家と若者との
交流もあり、(株)
アグリアイラン
ドは農家を支え
ながら、新しい農
業を見出し、未来
へとつなぐ活動
を行っています。

Advice & Planning

地域の問題を解決する対策を

淡路島の特産である野菜は天候に影響
を受けやすい露地野菜が中心です。また、
天候に影響を受けにくいハウス栽培でも、
台風の多い淡路島では、ハウスが吹き飛ば
されるなどの被害があり、安定した生産が
定着しないという問題がありました。JA
としても打開策を研究していた時、株「ア
グリアイランド」の土居チーフから「ハウ
ス栽培をしたい」という要望があり、一緒
にハウスの視察研修を行いました。その結
果、全天候型の軒高ダッチライト式ハウス
を採用することになったのです。今回タイ
ミングよく県の補助金制度と時期がマッ
チングしたこともあり、天候に左右されな
い農業を示すモデル事業として建設に至
りました。

作物は需要や収益性を考え、年中収穫
できるトマトを栽培します。このモデル事
業で目標量の収穫ができると、計画的な農
作業が行えるようになります。年間収
益を得ることができます。将来的には露地
野菜とハウス栽培の両方を行い、安定した
収益と雇用を生み出すのが目標です。今後
も(株)アグリアイランドの活動を支援す
るとともに、期待しています。



JAあわじ島
農業生産部農業企画課
課長 三木 浩介

新聞記事

リースで初期投資軽減

兵庫県 農業施設の見学会



定植したばかりのイチゴ苗の生育を見る藤井さん(左)と
八木組合長(右)ら(25日、兵庫県明石市で)

2015.9.26 日本農業新聞



2016.1.10 日本農業新聞

リース事業にも助成

JA 兵庫西 新規就農者 後押し



ハウスのイチゴを収穫する田嶋さん

2015.12.19 日本農業新聞

関連施策・資金

認定新規就農者制度

■対象者：新たに農業経営を営もうとする

①青年(18歳以上45歳未満)または②知識、技能を有する者(65歳未満)等
就農前及び就農後5年まで申請可能。

■認定主体：営農地の市町

■自らの農業経営の目標等を記した「青年等就農計画」の認定を市町から受けると「認定新規就農者」になることができます。

(注)「就農計画」の作成にあたっては、就農予定地の農業改良普及センター(地域就農支援センター事務局)の指導・助言を受け、実現が可能な計画を作成したうえで、市町へ認定申請をおこなってください。

■問い合わせ先：就農地のある市町の農業担い手担当部署

農業施設貸与事業支援資金

■貸付対象者：農業施設貸与事業の利用者（JAの組合員）

■概要

貸 付 主 体	兵庫県信用農業協同組合連合会(ＪＡバンク兵庫信連)
資 金 の 内 容	農業施設貸与事業で支払うリース料(一括前払い)相当額を無利息で融資し保証機関へ支払う保証料を全額助成
利 息	無利息
貸 付 限 度 額	兵庫県農業信用基金協会の保証額の範囲内、かつ所要額以内 (当初融資金額100万円以上)
償還(据置)期間	最長15年間とし、リース契約期間以内の期間とします。但し、施設・機械等のリース期間は耐用年数以内とします。(据置なし)
担 保 等	無担保・兵庫県農業信用基金協会の保証を利用

■問い合わせ先：兵庫県信用農業協同組合連合会 融資統括部 TEL.078-333-5771

青年等就農資金

■貸付対象者：認定新規就農者

■概要

貸 付 主 体	(株)日本政策金融公庫
資 金 の 内 容	・施設・機械等の取得等(農地の取得は除く) ・長期運転資金(農業施設貸与事業に係るリース料一括前払い費用を含む)
利 息	無利息
貸 付 限 度 額	3,700万円(特認1億円)
償還(据置)期間	12年以内(うち据置5年以内)
担 保 等	実質的な無担保・無保証

■問い合わせ先：(株)日本政策金融公庫神戸支店(農林水産事業) TEL.078-362-8451